

のだけを拾つたものである。全國と云ふのは臺灣、朝鮮、樺太等を省いてゐる舊日本全體である。(大正十一年産額、單位記入以外は萬圓)

品名	徳島縣	香川縣	愛媛縣	高知縣	全國
瓦磁器	一三三三		三四九		四九九四
蠟燭			三九		六〇九一
蠶絲	八七二	一三〇	七〇	八七四	九〇八
蠶絲紡績	五二五	二八六	二〇三六		七三九九一
綿織物	八一二	一五九	一一〇七	九八	五六七五四
綿織物	七八一	一五七	三八一三		一三六八七七
麻織物			三五八七		六四二四九
其の交及び織物			二〇四		二九九一
和紙	五五	一八九	四七三	九二三	五四七六
製藍粉	四五				一〇〇
メリケン粉		二〇六			九九五〇

砂糖(萬斤)	四五七	一三七六一
醬油(萬斤)	二〇	三二四
麥稈真田及	一七一	四二〇
經木真田		

香川縣と愛媛縣は各種の製造工業に手を出して居るが、徳島、高知の兩縣は比較的工業に従事する割合が少ないのが察せられる。又香川、愛媛兩縣の工業方面が、多少異つてゐるのが眼につく。表で、香川縣は左の方の品物を多く産するし、愛媛縣は右側の方の物産を多く産する事が知られる。

【和紙の製造】 仁淀川流域と肱川流域とが最も盛んである。その地方に旅行してみると、山の斜面の苟しくも少しなだらかな場所で、人里に遠くない處は悉く三椶を植ゑてゐる。人の脊丈がかくれてしまふ程に茂つてゐる。夏の終り頃これを刈り取つて皮をむく。むいた皮を川の淀みへもつて行つて浸したり日に乾したりして晒す。この皮が製紙の原料になるのである。

工場はやはり川の傍に出来てゐる。皮を煮たり、細かく剪裁したり、こねたりして純良な纖維を得る事につとめる。いよ／＼纖維が精選されるとこれを漉くのである。水に溶かした纖維を薄く簀の上に掬ひ上げるのである。掬ひ上げられたものを簀のまゝ昔は乾し上げたものであるが、今は乾燥室に運んでロールにかけて仕上げる工場が多いやうである。

仁淀川沿ひの伊野がこの事業が最も盛んであり、同じ川の上流の久萬町（愛媛縣）にも盛んにやつてゐる。肱川流域では大洲町、内子町、野村などが製紙地として知られてゐる。

【吉野川流域のある】吉野川中流の脇町近傍に産するのは葉藍である。染料としては洋藍インディゴブルーが非常に幅を利かしてゐるので葉藍の事業はどちらかと云ふと一年に衰頽して行く。

吉野川の河原續きの砂地は時として川の汎濫によつて作物に被害がある。さうした處に藍を栽培すると結果がよほど良い。あゝはそんな地質を好む植物であ

る。

ちよつと蓼に似た植物で、高さが二尺位になる。新教科書百二十七頁の挿繪に列をなして植ゑられてゐるのがそれである。葉の形は楕圓で互生してゐる。莖は少しく紅みを帯びてゐる。刈り取つた上で葉を落とす。それを乾かして碎いたものを揉藍と稱し、醱酵させて製したものをすくもと云ふが、挿繪にあるやうに、臼で餅をつく様に舂いて圓めると藍玉になる。

普通は藍玉が最もよく需要がある。これを藁製又は麻黄で作つた袋に入れて市場に送り出す。

【池田附近の煙草】葉煙草の生産される要件としては第一に降水量が可成り多くなければならぬ。次ぎに土地が乾燥とまでは行かずとも、あまりジメジメして居ない事を要する。第三にどちらかと云へば砂土がよい。第四に温暖でなければならぬ。

斯うした要件に適合する處は、主として太平洋斜面の海岸地か、同じく河沿ひ

の砂地か、又は臺地のやうな場所である。吉野川の直角にまがつて流れる部分に位置してゐる池田町の近傍の土地は、大體に於て煙草栽培に適合して居ると云へよう。

左に全國に於ける重要葉煙草産地とその産額を掲げる。(大正十一年)

福島縣 (中心地平)	一六〇〇〇四九貫
茨城縣 (中心地水戸)	三〇五三九五三貫
栃木縣 (中心地茂木)	三二四四二五九貫
徳島縣 (中心地池田)	一一一五三〇七貫
鹿児島縣 (中心地國分)	二二四七五七九貫

【愛媛縣の果樹】 道後平野の南北の斜面や高濱港の沖合の興居島等で蜜柑、夏橙、桃、梨、柿、そう云つたやうな果物類を多く出してゐる。部落にも近く、登つて仕事し易い緩かな傾斜地を、雜木材や雜草地にして置くのは惜しいので、斯うした生産業が軌近異常の盛況を示して來た。

阪神方面と海の交通が頻繁になされてゐることも、この事業への一つの刺激であつたらう。果物のシーズンに高濱港を通過してみると、あたり一面山のやうに果物が積み上げられてゐる。

大正十一年の統計では、梨三百五萬貫、みかん二百七十一萬貫、夏橙二百八十七萬貫、これだけを愛媛縣から出してゐる。

【綿絲に關する工業】 四國の海岸中土佐灣を除くの外は阪神との交通が頗る頻繁である處から各地に大阪に見習つた様な紡績並びに織布製造工業が發育して居る。

豊後水道に面する川之石、八幡濱にまでも早くから紡績工場が興つてゐる。之等の工業地で最も規模の大きなのは今治市で、綿フランネルの各種を製出してゐる。タオルのやうな小ものまで織られてゐる。

今治は先年より開港場になつたから原綿を外國より直接仰いで紡績、織布何れも出来るやうになつたが、従來は大阪の影響により、又大阪よりの使船の頻繁に

ある爲めにこの事業が長足の進歩を遂げたのであつた。

松山市及びその附近の農村では、多くは副業として手織の機を織つてゐる。その出来上つたものが伊豫絣である。久留米絣に數量上匹敵する程の産額を示す事がある。

愛媛縣に於ける綿織物の産額は大正十一年には三千五百八十七萬圓に達してゐるから地方の工業としてはよほど盛んな方である。

四 交 通

【鐵道の普及が遅かつたわけ】最近讃岐線がづん／＼伸びて、今や高繩山塊を廻つて松山に出でやうとして居る。これが四國では一番長い線路である。その他には池田から徳島に到る鐵道が比較的早くから出来てゐたのみで、所々にちよつ／＼とあるばかりである。

鐵道の普及がこれまでにあまりはかばかしく無かつた理由は、四國が結局國內

交通の幹線になり得ないことと、よしんば香川と愛媛との間に鐵道を布設するとしても、貨物の輸送をさまで引き受ける事が出来ないであらうとの心配から來て居りはせぬか。四國の沿岸各港からは海上交通の部で説くやうに頻りに便船が阪神や北九州に通つてゐる。鐵道が出来ても安價なる運賃の方を希望して、依然として船腹で四國の貨物が輸送せられるとすれば、鐵道は收支償はなくなる、とさう考へられたやうな事は無かつたか。

然るに鐵道の連絡船は單に旅客のみでなく、貨物列車をも船で渡す機運に向つた。この事實は鐵道の敷設者側から云つても貨物の發送者から考へても從來の考へ方を一掃しなければならなくなつた。敏速に商品を運ぶのは商法の秘訣である。從來貨物を鐵道に託することを好まなかつた理由は聯絡港に於ての積み下ろしに意外の時日を要するのを恐れてゐあつた。今や貨車のまゝで間髪を容れずに連絡を遂げて行く。斯うなると我れ先きにと貨物の託送が始まる。かくの如くにして島の鐵道も恰かも幹線から支線が設けられると一般で、急いでその敷設に努力せ

られる事となつたのであらう。

【海岸線に直交する鐵道】 四國の港が阪神並びに北九州と密接の連絡のあることは事實であり、四國に取つてもこれ程必要なことは無い。ところが從來の四國の鐵道はこの港に物資を出す爲めの機關として設けられた傾きがある。で、一般に短距離の鐵道は、四國に於ては海岸線に直角に交はつてゐる。

省線(徳島より池田に至る)讃岐線のうち多度津から琴平に至るもの、伊豫鐵道(高濱及び郡中より松山を経て森松及び横河原に至る)、愛媛鐵道(長濱より内子及び大洲に至る)、宇和島鐵道(宇和島吉野間)等が皆これである。

宇和島鐵道は一層興味ある地理的あらはれであると思ふ。それは四萬十川の流域を宇和島に結びつけて居る點である。宇和島灣に流れる須賀川と、四萬十川の支流三間川との谷が低い峠で接してゐる。そこをこの鐵道が利用して大分に彎曲して吉野まで出て行く。この鐵道によつて確實に四萬十川上流が宇和島港のヒンデルランドに編入されたものである。

【四國の主要港とその連絡ある港】

徳島 大阪、兵庫へ大阪商船會社、攝陽商船會社の便線がある。

高松 宇野へは鐵道省の連絡線が毎日六回づゝ往復して居る。大阪、神戸、

兵庫、吳、宇品、尾道、糸崎、宮島、岩國、三田尻、下關、門司、小倉、

若松等へ大阪商船會社、尼ヶ崎汽船、瀬戸内商船會社の便船がある。

多度津 大阪、神戸、吳、宇品、尾道、糸崎、宮島、岩國、三田尻、下關、門

司、小倉、若松等へ大阪商船、尼ヶ崎汽船、瀬戸内商船の便船がある。

今治 大阪、神戸、宇品、吉浦、尾道、下關、門司、別府、大分、佐伯、博多

佐世保、長崎、鹿兒島等へ大阪商船會社、尼ヶ崎汽船會社、住友汽船會社

瀬戸内商船會社の便船がある。

高松 大阪、神戸、宇品、吉浦、尾道、糸崎、下關、境、米子、門司、別府

大分、長崎、鹿兒島へ大阪商船會社、尼ヶ崎汽船會社、石崎汽船會社、九

州汽船會社の便船がある。

三津濱 大阪、神戸、宇品、吉浦、尾道、糸崎、下關、門司、小倉、若松、博多、佐世保、長崎、鹿兒島へ尼ヶ崎汽船會社、石崎汽船會社の便がある。
長濱 大阪、神戸、宇品、別府、大分へ大阪商船會社、瀬戸内海商船會社の便船がある。

宇和島 大阪、神戸、別府、大分へ毎日一回づ、大阪商船會社、及び佐伯へ毎日一回宇和島運輸會社の便船がある。

高知 大阪、神戸へ毎日一回づ、大阪商船會社の便船がある。

その外、志度、丸龜、觀音寺、川之江、三島、新居濱、西條、壬生川、郡中、川之石、八幡濱、小松島、甲浦等の諸港も阪神又は北九州の諸港と便船によつて結ばれてゐる。

これ等の港は、すべてその背後の地域を脊負つて經濟的に活躍してゐるのであるが、その悉くが阪神と密接な交通關係を持つてゐることは前の記載によつても明かである故に、見方によつて四國全體が、阪神二港のヒンテルランドとして考

へられるのである。

五 都 邑

【三角洲上の徳島】 徳島市の立つ地勢上の位置は石槌山脈の最東端、眉山（二八〇米）と吉野川の三角洲との接する部分である。徳島市の南方勝浦川、那賀川の下流地方にも平野があつて聚落を見る。これを吉野川流域の町村との交通上徳島の突角がよほど重要な地點となる事は自明の道理である。

徳島市の市街圖を見ると、眉山をとりまく様に街筋が延びて居る。徳島市がその西方並びに南方に對して商業的勢力をうち振はんとする意圖とも見られる。

この市の經濟活動上の一つの缺點は港がよくないと云ふ事である。市の中樞地から直徑距離一里を離れて津田港があるが、三角洲の分流の出口の事として汽船の出入に困難を感ずる。津田港附近には各處に塩田が營まれて居る程で淺いのも無理からぬ事である。

この缺點を補ふために南方の小松島港が徳島市と關係を保つやうになつた。徳島から六哩九の處にある。この海岸には多少丘陵地もあるので港は津田港よりは深い。それで大阪商船の鳴門丸、比羅丸などの中級型の汽船が阪神から直航してゐる。

津田港の方は攝陽商船の比較的小型の船を寄せてゐる。

【四國の大支關高松】 教科書百二十三頁の挿繪に見るやうに、高松東方には熔岩臺地（標高二八二米）としての屋島が海中に伸び出してゐるし、挿繪には見えないが、港の正北には女木島と云ふ延長三十町ばかりの花崗岩の島が（標高二一六米）が南北の方向に横はつて居て附近を航海する船舶に風波の慮りを少からず軽減せしめて居る。

けれどもこれだけでは「高松に」船舶を寄せることはむづかしい。それで石清尾山つゞきの小高い海濱の一部に船着場を設け初めたのが高松の發展の芽生へ時代であつた。その後時代の進運に伴うて築港は新式のものとなり松平侯の城廓玉藻

城の外側に堅固な防波堤を築いて寄港の船舶に安全な水面を與へてゐる。

四國鐵道の分布された曉に於て、この港の使命は一段と加へられる譯である。宇野との間の鐵道連絡船は僅々一時間で海上を横斷してゐる。挿繪の前景に列車が煙を吐いて築港の方に進んでゐる。多度津方面から來た列車である。



【松山と道後平野】 道後平野中の松山市の位置が研究に値すると思ふ。道後平野は第八十五圖に示すやうに略々三角状をなして高繩山塊と石槌山脈の北側に沿ふ丘陵との間に展べられてゐる。

この平野の周邊には、附近の農村を經濟的に支配する小都邑が出來てゐるが松山市も亦、平野の末端に位

してゐるのである。而も松山は、高繩山塊の南と西とに沿ふ交通路を會合せしめ低部（その谿谷線はやがて仁淀流域に通路を導いてゐる）、郡中方面よりの物資の集中する地點に相當してゐるので其の商業は可成り敏活に行はれてゐる。

四國の主要都市がたいがい港市であるのに、この松山市のみ斯うした平原内の一角に位置して居る點は、その經濟活動の能率に關する事大なるものがある。けれども高濱との三津濱との兩港灣があつて、松山市との間に鐵道、電車等の交通機關も備はつてゐるのでさまで不便を感じない。松山市の西口には倉敷紡績の松山工場があつて盛んに製絲を營んでゐる程で、大貨物の輸送にも事缺かない。

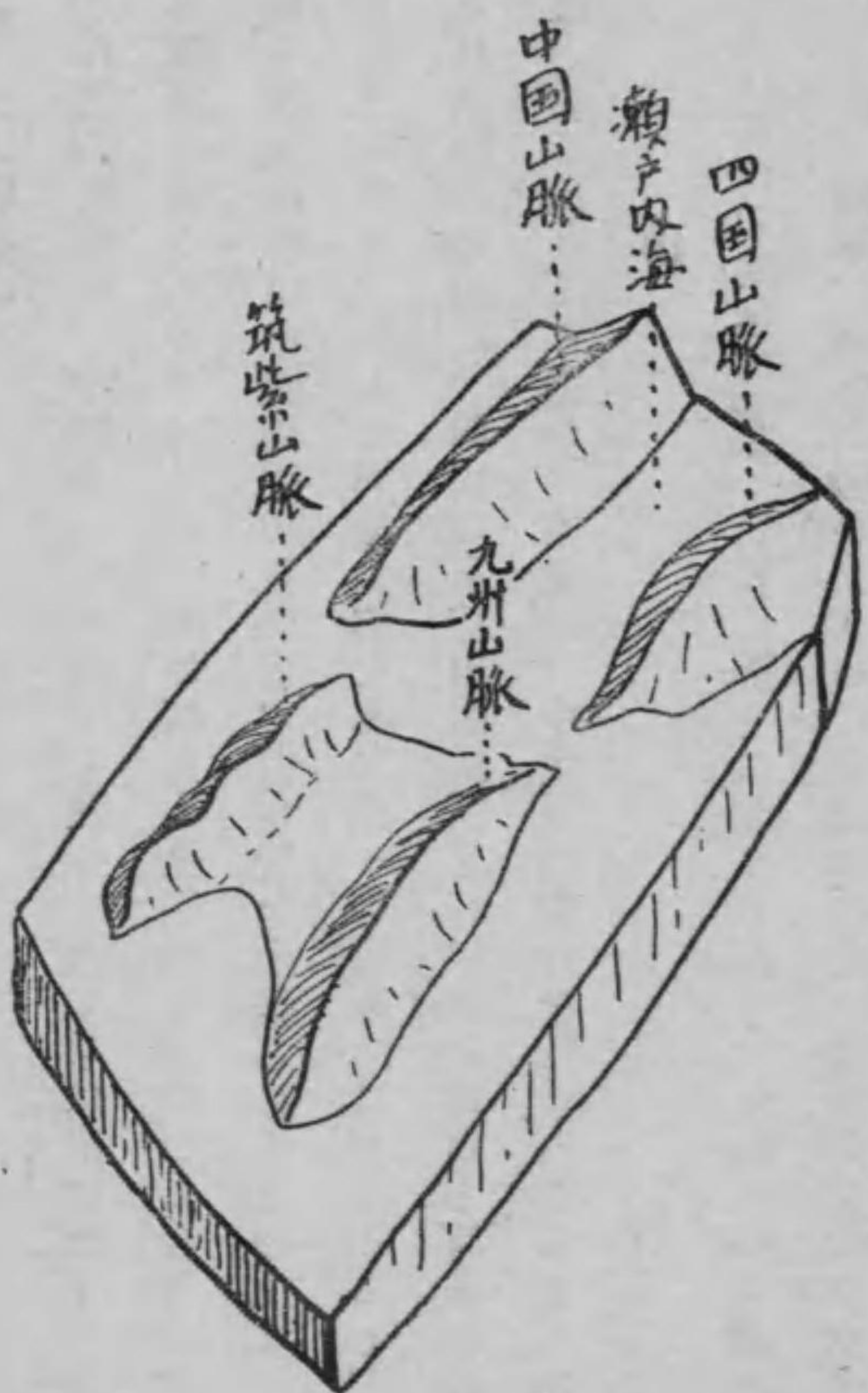
第八九州地方

- 一 區域（省略する）
- 二 地勢

【九州島の構造について】 中國山脈の延長としての筑紫山脈と、四國山脈の延

長としての九州山脈が、その間を高低種々なる地相によつて結びつけられた形が九州の本島である。

第八十六圖



尤も第八十六圖のやうに簡單ではない。兩山脈間には瀬戸内海から續いてゐる阿蘇火山

脈に屬する各火山も噴出し、筑紫山脈の方に偏して英彦山の如き熔岩の泥流を流

してゐる山も場所を塞いでゐるために、横型圖に示したやうな纏まつた平野は展べられては居ない。

これ等の山脈が、中國並びに四國から連つてゐる事は單に地勢や山脈の走向でのみ確證を得るだけではない。地質構造も全然軌を一にしてゐるのである。

即ち筑紫山脈は中國山脈が花崗岩、古生層を土臺としてその上に *Basalt* や *Andesite* を載せてゐると同様の相を北九州一帯にあらはしてゐるし、九州山脈及びそれ以南の地域は、四國の石槌山脈及びそれ以南の地質と符節を合してゐて、北ほど古く南するに従つて古生層、中生層の部分を行きわたらせてゐる。

山

【切れ切れの筑紫山脈】 筑紫山脈とは云ふけれど、それは一と續きの山脈ではない。處々斷層、陥落が働いた爲めに山脈の走向とは直角をなすやうな小さな切れ切れの山續きになつてしまつてゐる。

斷層によつてとり残された高まりの山脈をあげると、

- 1、**救企山脈** 門司の南方にあつて其の南は小倉より行橋の方へぬける谷で終つてゐる。
- 2、**福智山脈** 八幡の南方から筑豊炭田の東を限つて省線田川線の沿線まで伸びてゐる。これは主として花崗岩から出來てゐる。
- 3、**孔大寺山脈** 玄海灘中の地ノ島から起り、宗像炭田と筑豊炭田との間を西北より東南に走る低い山脈である。
- 4、**筑豊國境山脈** 直方の南方から發し、筑豊炭田のまん中を南方に走つて英彦山の麓に連つてゐる。主として第三紀から出來てゐる。
- 5、**三郡山脈** 福岡市の東方を南北に延ぶ山脈で、大宰府の後方に聳える寶満山等がその高原性の山續き中の主峯になつてゐる。殆ど花崗岩地域である。
- 6、**脊振山脈** 大宰府の西方から唐津灣の岸の方へ續く東西の山脈で、背振山（一〇五五米）、雷山（九五五米）等が高い。花崗岩の廣い高原性の地區をなしてゐる。

斯うした小山脈は佐賀以西にも澤山あるが繁に過ぎるから省略する。

之等の小山脈間にそれ／＼断層線が存するのであるが、就中福岡南方の御笠川断層が有名である。断層が起らなかつた以前は三郡山脈と脊振山脈とは高原の形で相連つて居たのである。断層の生成はこれを通路として中部九州と北九州との文化的交渉が生れ、遂に現今のやうな發展した福岡市を形成することゝなつた。

鹿兒島本線を汽車で旅行する時に、博多（福岡）から久留米まで殆んど何の苦もなしに、トンネル一つなしに汽車の進行するのを覺えるが、これは筑紫山脈中に働いた御笠川断層の恩恵によると言つても過言ではない。

【九州山脈】 筑紫山脈が切れ／＼になつてゐるに反し、九州山脈は高く、幅廣く、峻々として連つてゐる。北方より主なる高峯をかぞえると、

祖母山 大分熊本縣宮崎三縣の界にある。標高一七五五米。

三方山 五箇瀬川、美々津川、緑川の水源をなして居る。

市房山 人吉盆地の東に峙ち一ツ瀬川の水源をなして居る。海拔一七二二米。

白髮山 市房山の南方に連つてゐて川内川はその南の斜面に發してゐる。海拔一四一七米。

紫尾山 川内川下流の北方に蟠居する山で主として中生層の砂岩から成つて居る。

鐵道鹿兒島線はこの連嶺のうち、人吉盆地と川内川上流の平野との峠に相當する矢岳東方を、海拔五百十米の高さに於て六八七七呎の大トンネルを穿つて通じて居る。人吉より峠の驛「やだけ」までは僅かに十二哩四であるのに急行列車で一時間と十二分ばかりかゝる。これを平坦線の部分、例へば小倉より折尾に到る丁度十二哩の間を急行列車にて二十六分間で達するのと雲泥の相違である。

山脈が連続してゐるため斯うした影響を與へてゐる。その他この山脈の存在が、九州百般の人文に關係してゐるのは枚擧にいとまが無い。

【阿蘇火山脈】 に屬する火山は小規模のものとしては瀬戸内海及びその沿岸にも少しづつ噴出してゐるのである。既に一寸觸れて置いた高松の東方の屋島が之、

れに屬するし、屋島の東の五劔山、丸龜の東南の飯野山（四二二米）等も皆この系統の火山である。高濱港外に「伊豫小富士」の名を持つた二八三米の山も亦阿蘇火山脈に屬し、周防灘中の姫島にも第三紀層の土臺の上に火山が乗つてゐて同じ系統のものであるのを示してゐる。

更に九州本島に於ては密接してあらはれ、その活動の規模も大きかつた爲めに幾多の雄大な圓錐丘を起して居る。左に阿蘇山を除いたこの火山脈中の主要火山の名稱を掲げ要點のみを摘記すると、

兩子山 恐らく海中火山として噴出したものであらう。非常に古い火山で水の浸蝕作用を著しく被つてゐる。この火山の噴出がつまり、國東半島を作つたのである。

鶴見岳 別府のすぐ西に聳えてゐる。教科書百三十二頁の挿繪の左端に最も高く描かれてゐるのがこの山である。別府の北方の海岸附近まで美しい裾野を引いて居る。

由布岳 鶴見岳の西に接してある。海拔は鶴見より多少高く一五八四米を算する。

九重山 由布と阿蘇を直線で結ぶ中央にあつて海拔一七六八米、九州本島では最高の山である。單一火山では無くて久住岳、大船山、黒岳、三俣岳等が各々の火口を接近せしめて噴出した火山彙と稱すべきものである。久住が最も高い。

金峯山 熊本市の西に聳える六六六米の火山である。頂上を調べると小規模ではあるが二重火山になつてゐる。小さいけれど美しい山である。

温泉岳 島原半島を構成して火山である。妙見岳で界する二つの二重火山の合さつたもので、東側の中央火口丘としての普賢岳（一三六〇米）が最も高い。東側の二重火山の外輪山のうちに「眉山」と云ふのがある。寛政四年に突然爆發し東方に夥しく泥流を流した。同時に普賢岳の中腹からもその東北へ熔岩を流した。土地の人は「燒岩」と云つて居る。

多良岳 大村灣の東にある古い火山である。

これ等の火山の分布する地帯には火山活動の餘勢としての温泉が處々から湧き

出してゐる。別府温泉と小

濱温泉とが最も有名であ

る。

【阿蘇山について】 火口

の直經南北約六里、東西約

四里と云ふ素晴らしい大火山

である。これ程の大きさの

火口を有する火山は他には

ない。正に世界一である。

圖七十八第



但しこれは所謂 Caldera である。もとの火山の中央が陥落した鏝凹かまひなである。これだけの大きさで火を噴いたのでは決してない。

二重火山の事は關東地方の處で箱根で説明したから茲には精しく繰り返さない。

阿蘇の火口原は豊饒な平野になつてゐる。南郷谷と阿蘇谷を合せると殆んど阿蘇郡の全體に近いものになるが、國勢調査の結果について阿蘇郡の人口を調べてみると八萬一千九百九十一人ある。そのうち内牧、宮地、高森が町制を布いてゐる。そうした澤山の住民が養蠶をやつたり麥を作つたり牧畜を行つたりしてゐる。

新教科書百三十三頁の挿繪は、火口原の一中心地としての宮地町（人口三七一八、海拔五一〇米）から中央火口丘としての高岳中岳等を望んだものである。向つて左の山頂が鋸状になつたのが根子岳（一四〇九米）で、中央の最も高いのが高岳（一五九二米）その右に山の地肌が少し白くなつて居る部分の峯が中岳（一三二二米）、この中岳が現時活動中のものである。右の端の少々高いのが杵島岳（一二三八米）である。

阿蘇登山は坂があまり急でないから尋常五年位の子供にも出来る。熊本から宮

地まで鐵道で三時間半ばかり、宮地から中岳の頂上までどんなにのろ／＼と歩いても三時間もかゝれば達せられる。宮地の町から廣い火山灰の畑の中を通つて山根に近づくと杉、松などの森林帯となる。それを潜つて進むと一面の草原になる。草原が盡きるとゴロ／＼した熔岩の小石原となる。道しるべに熔岩を所々積んでゐる。

いよ／＼火口の近くは砂の斜面になつてゐる。火口の底にはもの凄いい青さの池があつて極めて熱湯が湛へられてゐるらしい。蒸氣はこの池の汀のあたり又は火口壁の中頃から噴き出してゐる。

【別府の温泉】 別府市及びその附近には温泉が數多くある。そのうち、別府、濱脇、龜川、鐵輪、柴石、明礬、堀田、觀海寺は別府八湯と稱せられて名高い。之等の温泉の分布を見ると多少或る法則が存するやうである。恐らく別府灣の奥には鶴見岳を中心にして南西より北東に、及び北西より南東に向ふ幾つかの裂線が存するのであらう。その裂線若しくは裂線と裂線との直交する場所に大に温

泉が湧出するのであらう。

「地獄」と稱する熱湯を噴き出す池や、酸化鐵が溶解して血の如くドロ／＼となつてゐる見物客を驚かせるものも、すべてこの裂線の上に位置してゐるやうである。

別府ばかりでも温泉の湧く處が一千口以上ある。多くの旅館や、相當の家庭ですらも自家用としての温泉を持つてゐる。そのあたりの土地をうがてばどこでも温泉が湧くのである。

新教科書の百五十頁下の挿繪に見るやうに砂濱にさへ温泉が湧く。濱の砂を掘つて、砂の中にもぐり込むと熱からず寒からずの湯がにじみ出る。尤もこれは夏分に限る事である。

別府温泉が天下にその名聲を轟かしてゐるのは、湯の豊富な事と、交通の便利な事に負ふ處が大である。大阪商船會社だけでも次のやうに交通に任じてゐる。

1、大阪別府線 紅丸、紫丸の二船が交代に毎日出帆就航してゐる。二船共に

純客船で、千五六百噸級の船である。阪神並びに高松、松山方面の乗客を満載して別府に運ぶ。

2、大阪細島線 別府九等の七八百噸級の船で、毎日一回大阪出帆往復とも別府に寄港してゐる。

3、宇品別府線 毎日一回往復、廣島、宮島方面の入湯客を吸収してゐる。廣島から鐵道で關門を廻つて別府に向ふとすると約十時間は是非要する。船に乗れば時間はやはり十時間だが寝て居て到着する。

4、宇和島別府線 これも毎日一回往復である。陸上の交通も日豊線が開通した爲めに面目一新した。新教科書百三十二頁の鐵道が日豊線である。線路に並行して大分に向ふ電車も通じて居る。

海上並びに陸上の交通によつて容易に別府に行く事が出来る。旅館も市中の通りも入湯客で殆んど満員の有様である。殊に夏季に入湯客が蝟集する。

【霧島火山脈】 薩南諸島に沿つて其の内側に噴き出した火山脈で、霧島火山群

櫻島岳（一一三四米）、開聞岳（九二二四米）、硫黄島（七〇〇米）、頂上に噴火口がある）、口永良部島（七〇〇米）等がその主なる火山である。

霧島火山群は二十二座の火山と、十個の爆裂火口と、多數の温泉並びに蒸氣孔、硫氣孔を有する大きな集合體である。それ等の配列の様子は第八十八圖に略示する通りである。圓中の點線は裂線の方



火山群中で最も高いのは韓國で、一千六百九十九米、九の標高を有する。直徑九百米に及ぶ大きな火口は約三百米ばかり凹んでゐる。

高千穂がこれについて高く一五七四米ある。この火山は頂上が少しく平に

なつてゐるのみで火口を有たない。但し、西側の山腹に御鉢と稱する現に活動中の

噴火口がある。西遊記の著者橋南溪によつて記された「馬の脊越」と云ふのはこの御鉢の火口壁上の事である。

霧島火山全體は陸地測量部發行の地形圖五分の一の「小林」に都合よく收まつて居るからそれを参照せられるとよいと思ふ。

櫻島の事は、便宜海岸の處で述べ度い。

川・平地

【筑後川と筑紫平野】 筑後川は由布、九重等の阿蘇の火山列の西北の斜面に發源し、日田盆地を過ぎ、筑後平野に出て北より寶滿川を入れ、久留米附近から西南に折れて島原灣に注いでゐる。

筑後川	流域面積	幹川延長	航路延長
一八五方里		三六里	四八里

圖九十八第



になさしめ得ると信ずる。

【熊本平野】 熊本平野の範圍は宇土半島及びこれに連る丘陵地帯以北の平野で

筑紫平野は主として筑後川によつて開かれてゐるのは事實だが、筑後川のみではない。南方の矢部川も、西方の川上川、六角川も亦筑紫平野の生成に預かつた。平野の範圍を略圖で示すと第八十九圖の通りである。久留米の處で縊れたつゞみ

形の平野である。久留米の東方に、まゝちもんじに續く山脈は耳納山脈と呼びその北側には斷層崖があらはれて居る。

平野の範圍に就ての斯うした考へ方は平野中の都市の活動範圍並びに活動方向を明かにするを得るものである。上の略圖とそこに位置づけられた久留米とを併せて考察する處に種々の新發見を兒童

ある。そこには菊池川、白川、緑川の三川が灌漑してゐて九州屈指の低平な一天地を成してゐる。但し熊本以北には丘陵や臺地が相當ひろがつてゐて、この部分には水田の設けられる事が少ないから、小豆、粟、甘藷、麥等の畑作物を多く試みてゐる。

熊本市は丁度この畑作物地帯と、南方の水田地帯との接觸點に位してゐるのである。

【球磨川の流域】 球磨川を日本三急流の一とか云ふのであるが、そんな事はどうでもよい。上流の人吉盆地の海拔が約百米乃至百五十米位にあつて、八代の海岸平野との間に山の逼つた横谷をなして流れるのだから急流になる道理である。

人吉盆地は北方に古生層の山續きと、東南に白髪山等の中生層の分水嶺を有しその西南の側に矢岳附近の火山岩地域が塞がつてゐる三角形の平地であつて、人吉は大體この盆地の最底所にある。即ちこれから球磨川が山をうがつて流れ出さうとする場所にある。

新教科書百三十四頁のは急流部の球磨川を示したもので、斯うした美しい山水が八代人吉間の川沿ひに至る處に存して居る。鹿兒島本線の列車の窓から之等の勝地の眺めを擅にする事が出来る。

八代の海岸平野に出ると急に水勢が弱くなりそこに可成り大きな三角洲を形成し、分流を流してゐる。

よく「球磨川下り」と云つて急流を流れ下ることの面白さが喧傳されてゐる。人吉より八代まで二十里ばかりの處を七時間で下つてしまふが上りにはどうしても二日間を要するさうである。

【川内川と大淀川】 九州山脈の主要分水嶺以南に頭と頭を合せて西と東に分れ流れる川である。霧島火山の北方加久藤附近で、東西に分水してゐる。その附近の高さ約三百米である。北部鹿兒島縣より宮崎縣に入る最も良好な交通線を設けしめて居る。

川内川の流路にあつては、吉松附近の盆地、大口盆地、宮の城盆地、川内盆

地等を開いてゐるが川口は兩岸から山がせまり合つて平野が少ない。これに反して大淀川の方は霧島山塊の東側に標高百四五十米の低地を作つて都城市をはぐくんでゐる。この低地は大淀川の本流に沿つて東北、宮崎の海岸平野にも連続してゐるし都城南方の鹿兒島縣末吉町附近で志布志灣に注ぐ菱田川の水系とも接し合つてゐるので早く云ふと北は宮崎附近の平野から、南は大隅の低平な地域にづつと續いて居る。都城はこの低地帯を經濟的に率いて立つて居る。

宮崎附近の海岸平原は多少階段状になつて日向灘に終つてゐる。佐土原あたりはその階段の上の部分である。宮崎市附近から最も低濕な沖積平野として海岸の砂丘に連いてゐる。

大淀川の川口には宮崎平野と砂丘との間に大きな潟が出来てゐて、その一部分を港として用ゐて居る。赤江港と云ふのがこれである。

海 岸

【筑紫山脈の連互する地帯の海岸】 筑紫山脈そのものが斷層等によつて頗る原形を失つて碎破された地帯であるために、之れに沿ふ海岸地形も極めて岬角灣入に富んで居る。

次に灣入を主にして多少詳説して行き度い。

1、洞ノ海 若松市西方の標高三四百米を有する花崗岩のフロックによつて包まれてゐる小灣である。灣内に二子島、平瀬、中石、葛島等の低い島があつて大體に於て極めて浅い海である。その灣口及び灣の東南岸は自然に多少深かつた處を、浚渫して大船の通航にも差支ないやうにしてゐる。沿岸一帯は一大工業地區をなしてゐて、八幡、苦松、戸畑の三市を發達させて居る。

2、博多灣 海ノ中道と西浦岬とによつて包まれた灣入であつて、福岡市附近の海岸平野に沿つてゐる箱崎附近にはごく低いが幅の廣い砂丘が出来てゐて松樹を多く生じ、「千代の松原」として知られて居る。海の中道は砂嘴が

を海灘中の志賀島を結びつけたものである。結び残された灣内の島に「殘島」などがある。

3、唐津灣 灣口を限つて佛崎、姫島、神集島、七ツ釜の突角が一線を引いてゐる。唐津灣はその南方に灣入した長方形の海面である。灣奥の砂丘「虹の松原」の西端に松浦川が注いでゐて舊唐津港を作つてゐる。新しい唐津港は松浦川の出口より三十町ばかり離れた西方に沖合の島と結びつけた堤防のかげに出来てゐる。

4、伊萬里灣 東西の松浦半島によつて挟まれ、灣口には元寇の史蹟に名高い鷹島が横はつてゐる。灣の中心にも福島などの相當大きい島がある。

5、大村灣 西松浦半島と彼杵半島に圍まれた灣である。灣口に近い處に海岸線の出入の多い針尾島が横はつてゐて大村灣から佐世保灣入を分つて居る。佐世保の方は深いが大村灣の方は非常に浅く、多良岳の斜面から流れて来た土砂が、海岸に沿つてかなりな平野を作つて居る。大村町はその上にあ

る。

【九州山脈の行きわたつた地域以南の海岸】 西北九州について海岸の出入の多い部分である。殊に豊後水道に面する海岸の屈曲が甚だしい。

白杵灣、(佐賀半島と楠屋崎の間)

津久見灣、(楠屋崎と蒲戸崎の間の海面)

佐伯灣、(蒲戸崎と鶴見崎の間の灣入)

等は最も深く入りこんだリヤス式海岸の典型的のものである。佐伯以南に於ても、楠本、蒲江、森崎、丸市尾、古江、北浦等の小灣が相隣つて存してゐる。

延岡の海岸は五箇瀬川の土砂の埋め立てによつて二里ばかりの間砂丘が連つてゐるが、その南方に又しても土々呂及び細島あたりの突出した半島を形成してゐる。

細島はその初めは米山(一九二米)及び畑浦山(一一〇米)の相並んだ日向灘

中の島であつた。それが、附近に注ぐ汐見川、伊鈴川等の土砂の沈積作用によつて陸についでしまつた。細島の背後の富高に至る途中の日知屋あたりの海拔は、僅かに三米強の海拔を有するのみである。

細島以南の海岸はごく平直な線をなして續いてゐる。大淀川の川口を過ぎて更に南に續き、蒲葵島として有名な「青島」のある處あたりから海岸は再び岩の海岸になつて屈曲を始める。神代史に深い關係地としての鵜戸神宮は切り立てたやうな海岸の斷崖の間にあつて海からでなければ仲々近づき兼ねる程である。

都井崎を廻つて志布志灣に入ると又なだらかな海岸になつてゐてそこには大規模な砂丘が松林を乗せて續いてゐる。志布志灣の副灣として灣口に近い南側に内ノ浦がある。この灣奥にも美しい砂丘が發育してゐる。

九州の南端佐多岬とその北方にあたる薩摩半島の突出としての長崎との間を灣口に有し、其の北方に約二十里入り込んでゐる大灣が鹿兒島灣である。これは明かに陥没によつて生じた灣入で、その東西兩岸は切り立てたやうな斷崖から成つ

てゐる上に、斷層線が所々に發見されて居る。火口港としての山川港が灣口に近い薩摩半島側にあるが、その西方の池田湖、西南の開聞岳等と共に過去の地質時代には大いなる活動時代もあつたらう。

鹿兒島灣中の櫻島が大正二年一月十二日の大爆發の結果、大隅半島の一小半島となつてしまつたのは火山活動が地勢に變化を與へる好標本として然るべきである。厚さ二十米乃至五十米ばかりの熔岩がヅル／＼と櫻島岳の中腹から流れ出して、鹿兒島市に面して相當さかえてゐた島の小聚落横山は全滅してしまつた。新教科書百三十六頁の挿繪に見える島の海岸の黒いのが皆熔岩である。半里ばかりも海の中に突き出てゐるのである。噴火當時の海水は、熔岩のために攝氏で四十度位になつてゐたさうである。熔岩の上には今に雑草一本生へず、恐ろしいやうな形相をした赤黒い岩のたゞずまひは見るからに氣味悪い程である。しかし外では見られぬ壯觀である。

薩摩半島の西南部には、坊ノ津、秋目等の小屈曲がリヤス式の海岸を作つてゐる

が野間崎を廻ると極めて平坦な、大弓のやうに少し彎曲してゐる壯大な砂丘が伸びてゐる。延長約十二三里にも及んでゐる。この長い濱をすべて吹上濱と呼んでゐる。海底に流動してゐる土砂が「吹き上げ」られたのである。

【瀬戸内海の沿岸】 伊豫灘の一部をなす別府灣は、國東半島的美濃崎（杵築の東南）と、佐賀關半島の地藏崎との間に挟まれてゐる。殆んど大部分砂濱から成つてゐるが、佐賀關附近と北方の杵築、日出あたりが礫濱をあらはしてゐる。佐賀關は第九十圖に示したやうに南北兩方面から灣入があつて貨物の陸揚をするに便利である。南風が吹けば北の灣入に入つて荷揚げをするし、北風が吹けば南の灣入



第十九圖

へ船を廻はして陸揚げをする。東西の風は一向平氣である。

別府灣の砂濱中でも大野川、大分川の相寄つて海に注ぐ附近では新しい三角洲の平野が出来てゐて海岸線を別府灣中へ可成り突出させてゐる。

國東半島の北方には小さい出入が多い。その一つの灣奥に竹田津の港がある。周防灘の南方は、

- 桂 川 (兩子火山の斜面から出る)
 - 驛館川 (鶴見岳の北方斜面から出る)
 - 山國川 (英彦山の東南斜面から流れる)
 - 岩岳川 (英彦山の東の斜面から流れる)
 - 今 川 (英彦山の北方斜面から流れ、行橋の南を過ぎて海に入る)
- 等の川によつて開かれた幅員約二里位の一帯の海岸平野が續いてゐる。この區域の經濟的中心地は山國川口の中津町である。

【有明海及び八代海の沿岸】 有明海は島原半島の南岸にある口ノ津の突角と天

草上下兩島及び宇土半島とによつて圍まれる「3」の字の格構に擴かつた淺い内海である。八代海は宇土半島、天草上下兩島、長島、出水半島によつて圍まれた細長い矩形の海である。

これ等の海は、構造上から云ふと瀬戸内海と甚だ類似した出來方の海であるが、有明海（島原海）の方には殆んど島を有しないのが瀬戸内海と著しく異なる點である。陥落の海には相違ないのであるが、地質が新らしい軟弱なものであつた爲めに、陥落し残された部分も波浪の浸蝕作用に抵抗し得ず遂に悉くの陸片を失つてしまつたものであらう。

有明海に注ぐ川としては筑後川を筆頭に緑川、白川、菊地川、矢部川、六角川等があつて、競争的に沿岸を埋め立てしつゝある。それで遠淺の發育は驚くばかりである。筑後川口附近の如きは一里半以上二里近くも干潟が露出する有様である。新陸地がドンドンと伸びて行く事は望ましい事であり、干潟の利用として牡蠣、のり等を養殖するには極めて好都合の場所ではあるが、港灣が見る見る埋れて

行くのはこの上なく不都合な事である。

三池の炭田や、六角川流域の杵島炭坑等から産出せられる石炭は、以前は多く口之津開港場から海外へも送り出したものであるが、口之津まで運び出すのが大變である。それで大牟田市に新たに三池の築港が立案され、近年に至つて竣成した。新教科書百三十六頁の「三池港の圖」に示してあるやうに、海岸を埋め立てて、それを基點にして大凡半里ばかりの二條の突堤を海中につき出した。そのあたりにはもはや干潮に際して海底の露はれるやうな處はないのである。突堤の間から内港、ドツクにかけては勿論浚渫した。數千噸の大船でもドツクまで入港し得るやうにした。

けれども茲に一つの問題がある。それは島原海は内地では一番汐の満干の差の甚だしい海である。大潮に際しては満干の差が十八呎五に達すると云ふ有様である。内港からドツクにはいつて石炭の積荷をしてゐる船舶が、ドツクの底にくつゝいて轉覆の危険を感じる。それで設けられたのが内港ドツク間の閘門の設備で

ある。これは朝鮮の仁川港などにも最近設けられてゐるもので、要するに満潮に際し、船も潮ももろともにドツクの中に入れてしまふ。そして潮が干はじまると開門のドアはピツシヤリと閉める。するとドツク内に満潮時と變りのない水面を保つと云ふ仕組である。

近海の島

【島が海洋の境界をなす例】 遠州灘とか日向灘とか鹿島灘とか云ふ時には、只ばつとその附近の海を名づけてゐるのみであるが、普通の場合には海と洋とは他との境界がある。半島や島などで海と海との界を劃するのである。

例へば對馬と壹岐とが相よつて日本海と東支那海を分けてゐる。九州本島と薩南諸島と臺灣とが東支那海を太平洋より分けてゐる。スカンチナビヤの半島とセトランド諸島とイギリスとが北海の範圍を決定してゐる。アリユウシヤン列島が北太平洋からベーリング海を分割してゐる。

【長崎縣に屬する島々】 壹岐、對馬、平戸、五島等が主なものである。

壹岐島 砂岩、變岩等の第三紀層で土臺が出来て居り、其の上に玄武岩安山岩等を噴出してゐる。別にこれと云ふ火山もないが系統上から云ふと白山火山脈に屬する。海岸線は出入が多く西南に郷の浦、北面して勝本の良港がある。

對馬 地質上釜山附近並びに山口縣の西部海岸地方に似て居る。中生層の粘板岩等から成つてゐる。島のぐるりが斷層によつて切り落されたものである。この斷層の力は更に淺海灣を構成し對馬を南北に分裂せしめてゐる。淺海灣の南岸には海軍要港の竹敷がある。

平戸島 島の表面は殆んど火山岩に覆はれて波狀の丘陵地をなして居る。處々圓錐形の山もある。平戸町は西松浦半島との間の狭い瀬戸を扼して位置して居る。

五島 長崎の西方約二十五里の海上に、南西より北東に連る海岸線の極めて出

入の多い數個の島から成つてゐる。構造は非常に雜然としてゐる。中生代の岩層を貫いて古生代の山があるかと思ふと、美しい玄武岩の山が突兀として聳えてゐたりする。福江町のすぐ傍にある山の如きがそれである。

三 産 業

農 業

【九州本島の氣象統計】
氣温と降水量

鹿 兒 島	宮 崎	熊 本	長 崎
鹿 兒 島	宮 崎	熊 本	長 崎
一六・七度	一六・六	一五・五	一五・七
二二二・二耗	二五九九	一七八九	一九〇三
累年平均氣温	累年降水量平均		

福 岡	大 分	東 京
一四・九	一五・一	一三・八
一五八九	一六三三	一五六一
累年平均氣温	累年降水量平均	

大正十二年月別降水量

下 關 (北九州を代表する)	鹿 兒 島	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年								
83	60	94	89	85	180	261	340	258	608	529	26	216	148	286	248	265	136	152	50	85	2585	2694

大正十二年は西日本一般に雨量が極めて多かつた年である。けれども月別の分布の比例は概して右の表の通りである。

【農産統計】

米 (大正十二年)

縣名	石高	主產地
福岡	二二七九〇一二石	筑紫平野
佐賀	一二〇一三〇七	同
熊本	一五〇〇九八九	熊本平野

さつまいも (大正十一年)

縣名	産額	摘要
沖繩	一六二〇三萬貫	島々に産し之を常食とする。
鹿兒島	一六〇二八	島々及び大隅薩摩兩半島の火山灰の臺地上に産する。
長崎	七六五六	五島壹岐等に多く産する。
熊本	五七五七	天草島及び熊本市以北に産する。

【米を産する地域の生産事情】 筑紫山脈と九州山脈との間の平原地、即ち筑紫平野、熊本平野、八代の海岸平野、周防灘沿岸の平野等が米どころである。

圖一十九第



1. 之等の地方が九州に於ける米穀の生産地になつた事情は、
沖積層の平野が比較的多く行きわたつてゐる事。
2. 氣候が温暖で稻の生長發育が佳良な事。
3. 米の結實期に於ける氣温並びに日射の度合が高く、實入りに極めて好都合である事。
4. 地味が肥えてゐること。

等が土臺になつてゐる。

第三結實期の天候の事も、奥羽地方以來しばしば説いた處であるが、九州に於ては南方の九州山脈に吹き来る太平洋上よりの大氣が宮崎縣並の鹿兒島縣下に夏分多大の降水量を與へ(前記の氣象統計参照)、山脈を吹き越すに及んで著しい氣温の上昇を見る。熊本に於ける夏分の暑さは、宮崎鹿兒島兩市よりも却つてすつとはげしい

のは事實である。この暑氣と日照とによつて稻は思ふ存分に實るのである。肥後米、宇佐米などと云つて市場では聲價が高い。

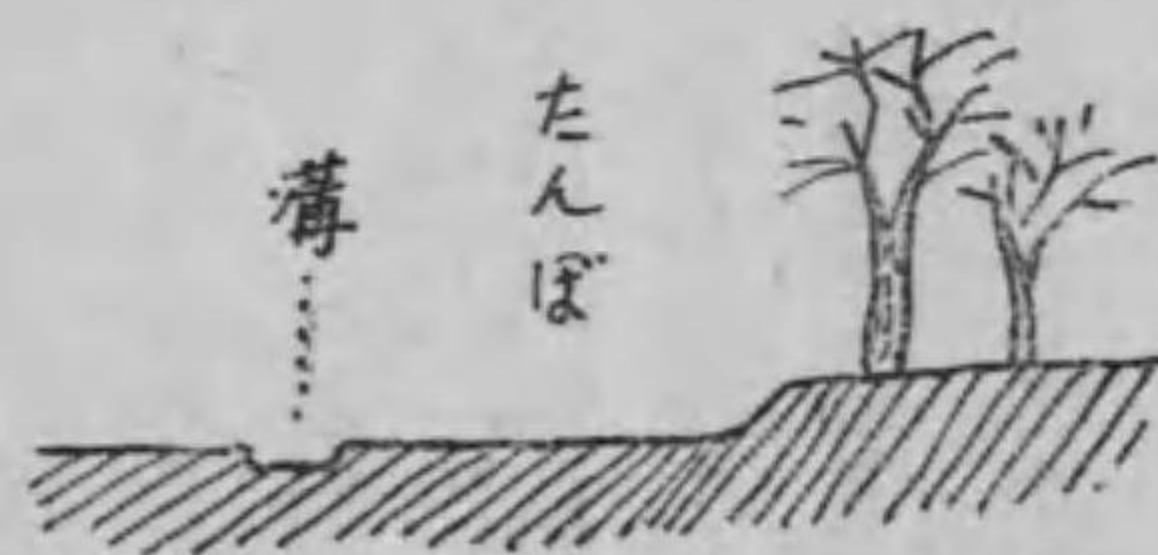
熊本市と佐賀市には盛んな「米穀取引所」が設けられてゐる。久留米や中津なども米を多く集散してゐる。

【はせの生産について】 榿は塗樹科の落葉喬木で四國九州等の暖かい土地に自生してゐた植物であつた。今はその果實が各種の化學工業にも應用せられるために熊本縣、福岡縣等の平原沿ひの小高い處で旺んに榿を植林してゐる。

新教科書百三十八頁と百三十九頁の下の挿繪に見るやうに、可成り大木に生長する。二十尺から三十尺位にまで高くなり、幹の直徑は二尺にも及ぶものがある。福岡から熊本へ汽車で旅行するやうな場合、車窓から多くの榿林を眺める事が出来る。秋の半ばには葉が紅葉して實に美しい。

果實が熟するのは秋の終りである。それであるから農家の副業として最も適當である。米の取り入れが終つてから「はせ」の採集にゆく。

圖二十九第



はせの實を粉碎し、釜に入れて蒸すとドロ／＼になる。これを一番蠟と云ふ。それから又釜に入れて蒸す。この時核を分離する。この核は炒つて粉碎し、蒸して「榿核油」と云ふものにする。それを二番蠟に混合して得たものを木蠟又は生蠟と云つて居る。

全國に於ける生蠟の主産地とその産額をあげると、

熊本縣	一二七六三九五圓
福岡縣	四七七〇三八
愛媛縣	三八三六七九
大分縣	二一三三八四

で熊本、福岡が拔群である。

生蠟を日光でよく晒したものを晒蠟又は白蠟と云ふ。これは外國に輸出する。日本ではびんづけに製造し、又石鹼製造に應用する。

用途の非常に廣い極めて有利な事業であるが決して水田をつぶしてまでは植林

しない。灌漑の比較的不便な畑の上に植ゑられる。た、ん、ぼの面から僅か一二尺高い畑の上にもこれが植ゑられてゐるのを見る。

【さつまいもと煙草】 この二つは九州山脈以南の暖地にして多雨地にして且つ臺地、さう云つた地域によく産する。都城附近から南は大隅半島の中央の鹿屋かみやの附近まで、主として火山灰の積つた灌漑に困難な臺地から成つてゐる。又鹿兒島附近にも低平な、山の頂さが畑になつてゐるやうな部分が廣く分布して居る。斯うした臺地の上でさつまいもが作られる。鹿兒島の田舎ではこれを常食してゐる。又焼酎に製造したりする。年産額一億六千萬貫と云ふと素晴らしい高であるが、賣品として市場に出る部分はごく僅かであつて、その大部分は土地で食糧とせられてしまふのである。

煙草も亦灌漑のしにくい火山灰の臺地で多く作られるが、その殊に多く作られるのは鹿兒島灣の奥の國分地方と、灣口に近い指宿附近とである。

林業・牧畜

【林産統計】 (大正十一年)

熊本	大分	宮崎	鹿兒島	用材	薪炭材	合計
五四七萬圓	四四六	四四四	三九二	三六二萬圓	二五七	九〇九萬圓
					二一一	七〇三
					二二一	六五五
					二二一	六二二

【畜産統計】 (大正十一年)

福岡	長崎	熊本	大分	牛	馬
五八二四三頭	七二六二五	六五四三八	七四九三三		四一四四三頭
					二〇六六〇
					九〇六八八
					三九七二九

宮崎
鹿兒島

二八〇六六
八五三〇八

七〇三二六
一一〇八三〇

【東南部九州の林業】九州山脈以南の地は雨量も多いし氣温も暖かだから森林が廣く行きわたつて居る。田舎の部落でも防風林として、又夏季に涼しい日蔭を與へる方便として家のまわりに小さい樹林を存して置く程である。山の麓から中腹にかけてはおたり一面の大森林をなしてゐる。

これを用材として川内川や珠磨川を下す分量も多いが、新教科書百三十九頁の上の挿繪のやうに、山中で木炭に製造して鐵道沿線又は海岸の港などに運び出す。

製造の方法は挿繪に見るやうな大きな泥の蒸し釜を作る。この中へ手頃の材木を詰め込むのである。詰め込みが終ると點火する。そして暫らくして口を泥で塗りつぶしてしまふのである。どこからも空氣の出入しないやうに厚く泥で塗りつぶしてしまふ。

點火された木材は泥釜の中で木炭に化するのである。焼き可減がよほどあるさうである。挿繪の左手の物かげらしく黒く見えてゐるのは炭焼夫の寢泊りする小屋である。

【牛馬の飼養】九州地方には、多くの火山によつて形成された裾野や熔岩の Plateau が廣く分布してゐるし、澤山な島があつてそれ等の上で牛馬の牧畜が盛んに行はれてゐる。

なかんづく牧畜地として名高いのは霧島と阿蘇である。霧島の西南の斜面には廣い熔岩の高原があつて、降雨に恵まれて牧草がのび／＼と生えてゐる。鹿兒島本線の牧園驛から霧島温泉に向ふ道路の兩側に一面の牧畜地が展べられてゐる。あちらに一群、こちらに一群と吞氣に馬が草を喰つてゐる。農商務省主管の鹿兒島種馬所もこゝにある。

霧島の北の斜面の加久藤、小林、高原も亦盛んに牧馬をやつてゐる。殆んど霧島火山をとりまく様に、裾野並びに高原を牧場にしゐる。

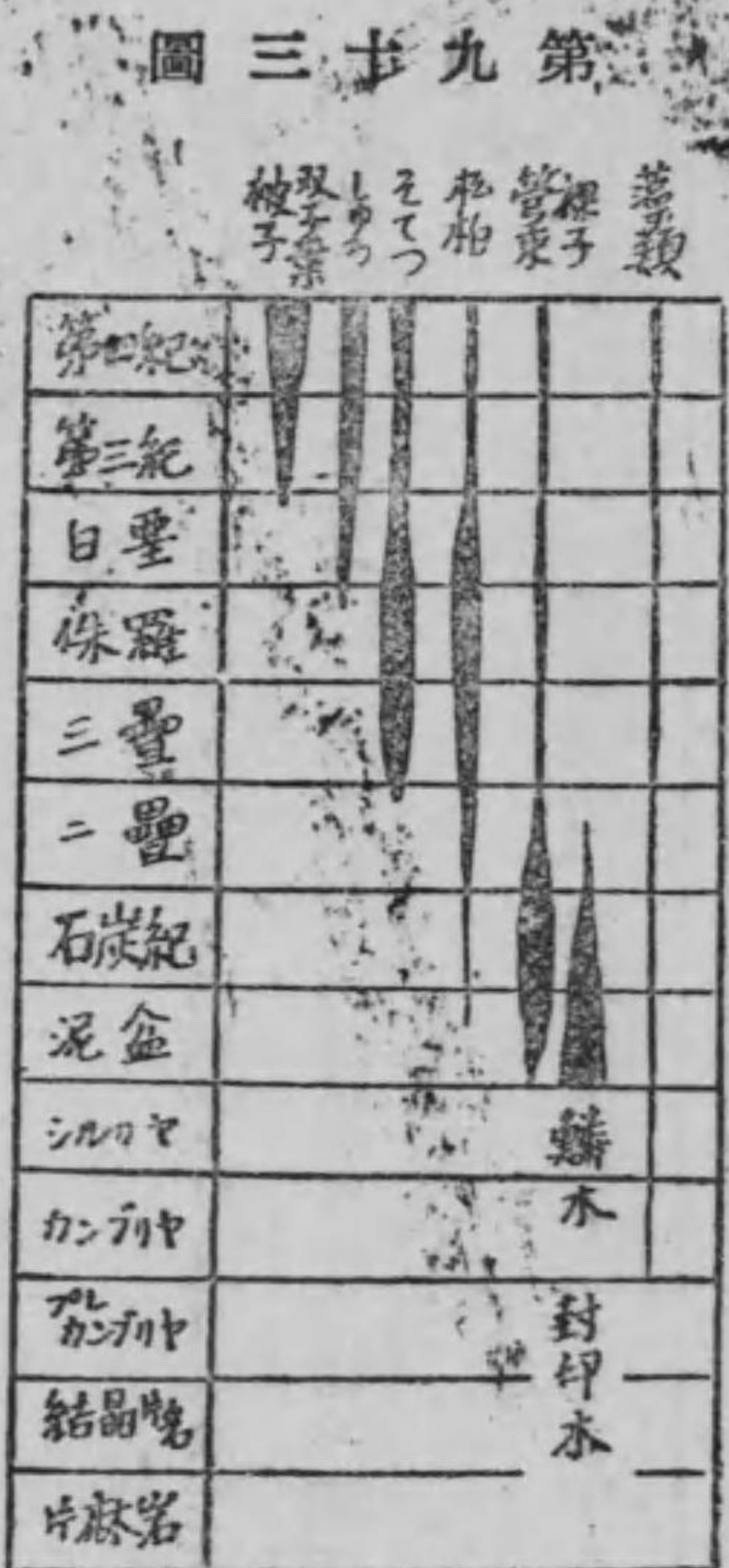
阿蘇の火口原から宮崎縣との國境の馬見原附近も亦盛んな畜産地である。長崎縣では温泉火山のスロープに放牧をやつてゐるし、壹岐、五島、平戸あたりにも相當行つて居る。

鑛業

【鑛産統計】 (大正十一年)

	石炭 (圓)	金 (圓)	主要鑛山
福岡	一四一六五三三三二		三井田川、三井本洞、大之浦、萬田
佐賀	一七五六三七七二		相知、杵島
長崎	一四九六六〇八四		高島、松島
大分		三三三三四七一	鯛生、馬上
鹿兒島		一五〇三六八〇	串木野
全國	二五〇九一五八四五	一〇〇一二六六〇	

右の全國と云ふのは臺灣樺太朝鮮を除くこと。【石炭は如何にして生成されたか】古生代の終りに炭期 Carboniferous といふ長い地層があつた。



現在の木賊はデリケートな草本に過ぎないが、石炭紀の木賊は幹の直径が三、四尺、高さは四十尺以上に及んだものもある。以て他の植物の偉大であつた事が推して知られる。

この時代は現在に比べてみると非常に暖かく水分も多かつたから鱗木 Lepidodendron 封印木 Sigillaria、蘆木 Calamites、木賊の類などが繁茂してゐた。

ところが石炭紀末に大洪水がやって来た。森林は殆んど泥土に埋められてしまつた。第三紀時代に入つて地表は非常なる變動が起つた。火山作用や褶曲、斷層等が相ついで起つた。第三紀の地層の覆ふた下は比較的過去の状態を存したが、それでも處々に噴出した火山によつて埋藏され來つた大森林の遺骸は一層完全に炭化されるに到つた。

斯うして筑豊炭田あたりに掘り出してゐる石炭は生成された。
【筑豊炭とその輸送】 筑豊炭田の諸炭坑からは一箇年大約一億圓の石炭を掘り出す。

主なる炭山とその鑛業權者、産額(大正十年)をあげると次のやうである。

名	稱	鑛業權者	産額
大之浦	飯塚	貝島合名	七九七九八二五圓
二之瀬	飯塚	農商務省	七一〇七五一七
飯山	飯塚	島鑛業	五〇二七〇二四

明治赤池	明治鑛業	三六一三一六五
三井山野	三井鑛山	三四一七二〇三
三井田川	三井鑛山	一〇三六九一四一
上山田	三菱鑛業	一七八九二六三

石炭の採掘が盛んなるにつれて鑛山の附近、又は石炭輸送上の要衝の地點に都市が續々として勃興した。

若松市	四九三三六	穗波村	三七二三五
飯塚町	二八八七六	添田町	二八五六九
後藤寺町	二八三一九	伊田町	二二三七一
宮田村	二〇二七五	直方町	一八四四二
香月村	一八四二九		

(大正九年十月一日の國調による)

石炭を港に輸送する爲めには、

筑豊本線 若松より直方飯塚を経て上山田に至る。

伊田線 直方伊田間
 香月線 中間(筑豊本線の驛)香月間
 田川線 行橋より伊田を経て添田に至る。
 長尾線 飯塚長尾間
 室木線 遠賀川室木間

桐野線 直方桐野間
 宮床線 後藤寺宮床間



豊炭を若松に送り出す「運炭列車」である。門司の方へは田川線によつて出す事が

等の省線があつて樹木から枝が出たやうに分布してゐる。鹿兒島本線の汽車で折尾を通過する時、鹿兒島本線の下を潜つて南方から北方へ長く／＼續いた石炭満載の列車を見ることがある。あれが筑

第四十九圖

多い。

遠賀川がまた位炭輸送に寧ろ鐵道以上に役立つて居る。

遠賀川	流域面積 七一方里	幹川延長 一六里	航路		
			本流 一四里	支流 三四里	合計 四八里

本流は僅かに十六里であるのにそのうち十四里まで舟を通ずる。ことに此の川の便利なのは洞ノ海へ水路が通じて居ることである。若松へまでは極めて安價に輸送が出来る。

若松からでも瀬戸内方面ならば輕便に運搬が出来る。新教科書百三十五頁の「若松港」に見られるやうに、澤山の和船が石炭を積みに来てゐる。これが阪神乃至は中國四國の沿岸の港に向ふのである。鐵道で送り出されたトロッコを廻轉させるにゴックと船に落ちこむ。

門司の積み出し場もうまく出来てゐる。海岸に高架線が出来てゐて其處から下

に落とす仕掛けになつてゐる。

【其の他の石炭産地】

大牟田市附近の炭田、これは三池炭山と稱し、三井鑛山株式會社が經營してゐる。大正十年の産額が一九八二〇七九八圓であつた。新教科書百四十一頁の挿繪は萬田の炭坑を示したもので、中央に高くなつてゐる櫓やうのものがエレベーターである。掘り取つた石炭を其處へ引き上げて來る。そして前景に幾條ものレールがあるが、これが三池港まで引かれて居る。三池港の港灣の設備は地勢の部で略説した通りであるが、ドツクに沿つて數臺の石炭積込機が備へつけられてゐるので非常に便利である。

松浦川附近の炭田、相知炭山（三菱鑛業の經營、大正十年の産額三六五五八〇圓）、杵島炭山（高取鑛業の經營、大正十年の産額五一七三三八六圓）等が有名である。杵島の方は長崎線で出したり、住江開港場から送り出したりするが、相知は唐津線によつて西唐津まで出し、そこに新たに築かれた堤防の

上から盛んに積み出して居る。

高島松島炭坑、共に長崎港外にある小島で、島の上から坑道をつけて海底炭を採掘して居る。長崎から汽船に積んで支那の諸港に輸出する。

【金の製鍊地としての佐賀關】、新教科書百四十二頁の挿繪の前景に製鍊所の一部が出てゐる。「九州地方の海岸」のところでも述べたやうに、北方及び南方から小さな灣入があるので他地方から運んで來た鑛石を陸揚げするのに容易である。遠景の低い山嶺きは四國の佐田半島の一部である。

工業

【九州重要工産統計】

（大正十一年）

單位萬圓

	福岡縣	佐賀縣	長崎縣	熊本縣	大分縣
煉瓦	三二七	八九			
瓦	九九				

陶磁器	一三四	二九一	一七一	
玻璃	一〇三五			
工業用藥品	二三七			
蠶絲	一七四一		一〇三四	一一六二
織物	四二八			
西洋紙				
疊表				五三〇

福岡縣に各種の製造工業が競ひ興つてゐることが知られる。

【北九州に一大工業地區の出現してゐる根據】

1. 筑豊炭田等の影響 石炭産地がすぐ接近してゐるので石炭の輸送費を大に軽減することか出来る。
2. 位置の良好 關門海峽を附近に控え、阪神との海上運輸の便が至極よい上に、外國航路の邦船乃至外國船も絶えず通過する地域に位置してゐる。それ等の船舶に生産品を容易に積み取らせることが出来る。

3. 概ね、港灣が良好である。これは筑紫山脈の地帯の構造のところて述べた。

4. 原料の集中に便 八幡の製鐵所（農商務省經營）は鐵鑛を支那の大冶及び朝鮮の載寧鐵山から取つて居り、大里の製糖工場は沖繩臺灣及びジャワから粗糖を移入してゐる。それ等の原料生産地に近い便利がある。

【大工場の分布】 新教科書百四十三頁の分布圖に基いて、左に多少附説して見る。

關門附近 門司市の白木崎（風師山の下）にセメント工場がある。大瀬戸に面する大里の濱邊に製糖工場がある。之等の大煙突が關門海峽を壓してゐる。彦島には岸柳島のかげに製鍊工場があつて鐵、亞鉛等の精製をやつてゐる。彦島の北方は本村及び西山にはドツクが設けられて造船を營んでゐる。小倉附近 海岸に近い方に製鐵、製鋼の工場が並んでゐる。奥通りには製紙、陶器、紡績等の工場が群がつてゐる。八幡の背後から流れ出てゐる板櫃川に

沿つて鐵道工場も活動して居る。

洞ノ海沿岸 官設八幡製鐵所（男工二一八六五人、女工一五一二人を使役してゐる）を初めとして、戸畑市の鑄物工場、製鐵製鋼工場、枝光の製釘工場、八幡市の製鐵工場、造船工場、黒崎の製鋼工場、筑豊線二鳥驛南方の製鐵工場等、鐵に關する大工場がずらりと建ち並んでゐる。

新教科書百四十三頁の下の挿繪は八幡停車場の東方高所から官設製鐵所を俯瞰したもので、林のやうに大煙突が並び立つてゐる。熔鑪は左手の煙突の密集した部分にある。毎日平均二名犠牲者を職工中から出す統計になつて居る。

鐵以外の大工場としては、戸畑に骸炭工場、製糖工場、硝子工場、紡績工場があり、八幡市にはセメント工場も營まれてゐる。

【有田の製陶工業】 有田地方は第三紀の水成岩中に花崗岩や安山岩などが錯雜して噴き出してゐる低山性の丘陵地帯から成つて居る。そして水蝕によつてそれ

等の岩石は良好な粘土となり、粘土層の下にも半ば化學變化を起した白つばい岩石（陶器の石）が多く存してゐる。これを原料とし、附近に産する石炭で、火の加減をはかりつゝ陶磁器を焼くのである。大正十一年の佐賀縣陶磁器産額は二百九十一萬圓であつた。

新教科書百四十四頁の挿繪を説明する。

こね上げた粘土を轆轤の上に乗せる。轆轤は男工の足もとの處にある。足で轆轤を踏みくゞ茶碗、皿、壺、德利、猪口さう云つたあらゆる品物を作る。それが略々乾いた上で繪付けをする。繪の型紙がちやんと出來てゐてそれを器の上にはりつけ、染料を塗りつける。それから釉藥を施して焼き上げると光澤の美しい瀬戸物が出来る。關西では陶器のことを特に「からつ」と云ふ。唐津で昔は焼物をつくつたし、又有田あたりの陶磁器を船で積み出したので「からつ」として知られるやうになつたのである。

【長崎の造船業】 長崎港の西岸飽ノ浦一帶の地域で行つて居る。三菱の經營に

かゝるもので、これまでのレコードとしては戦艦日向(三一二六〇噸)を建造した。その他多くの艦船を造つてゐる。一年に四萬噸の造船能力を持つて居るとの事である。

新教科書百四十五頁の挿繪を簡單に説明する。これは三菱造船第三ドックである。造船臺に大小二隻の汽船の乗つてゐるのを兩方から棒で突つ張つて平均を保たせてゐる。これは船底塗換へのために入渠してゐるもので、小さい方はトロール船である。

作業が終ると閘門を開いて海水を導く。満潮の時には四時間を要してドックに満水する由である。

【その他の工業】大分縣の國東半島では茜を植ゑて疊表を製造してゐる。産額は前に掲げた様に廣島縣をずっと凌いでゐる。熔岩の分解された土砂の平地を利用して栽培し、製品は便利に需要地に向け得られるので、生産事情が高梁川下流地方とよく似てゐる。

筑後川の下流の川岸では盛んに瓦を製造してゐる。川泥乃至田の底に層をなしてゐる泥を掘り取つて瓦に焼くのである。燃料は三池乃至は杵島あたりから得られるが、多くは筑後川上流から來る松割木を用ゐて居る。

久留米及びその附近には緋織、足袋製造等が盛んである。筑紫平野の交通上の重心になつてゐるので、附近農村に對する需給の關係が基礎となつて斯うした工業が旺んになつて居る。

水産業

暖流の關係、海底の深淺、海面の動搖如何によつて九州四周に群がる魚族の分野を異にしてゐる。

漁獲高の方では、長崎の真鱈(二五一萬圓)鱒(一〇一萬圓)柔魚(一八八萬圓)福岡縣の鯛(一六四萬圓)、牡蠣(二六萬圓)、等で、水産製造物としては鹿兒島縣の鯉節(四五二萬圓)、沖繩縣の鯉節(二九二萬圓)、長崎縣のするめ(二二五萬圓)

圖五十九第



眞鱈煮乾（一二二萬圓）等が著しいものである。

尙ほ鹿兒島縣の甌島へ五島の漁民がさんごを採集にゆく。甌島近海は水溫が殊に暖かなので、海底に珊瑚虫が群棲してゐて潜水漁夫の眼を驚かす程美麗に育つてゐるさうである。

四 交 通

陸上の交通

【交通と地勢との關係】

鹿兒島本線、福岡久留米間で所謂「御笠川斷層」の地帯を通じてゐる。八代か

らはいちづに球磨川に沿つて上り、矢岳を越すために新教科書百十六頁の挿繪にある如きループ線をなしつゝ進み、一度川内川の谷に出るが、しばらくして低き分水線を越して新川の流に沿つて鹿兒島灣中に出てゐる。

宮崎線 吉松から延岡まで行く線路である。霧島の北を大迂回して都城に出るのが奇であるが、實は其處に存する低地帯を通つたまでの事である。それから都城から分岐した都志線が成るに及んで吉松都城の間の線路の價值が増して來た。志布志から熊本乃至福岡に出るに、この部分が最短線の一部となる。宮地線 熊本から大分に出やうとする線である。白川及びその上流の阿蘇の火口原と、大野川に沿ふことがこの線の狙ひどころである。

その他唐津線、川内線、山野線等も、皆よく地勢に即して敷設されてゐることが解る。かくてこそ鐵道は初めてその本來の使命を果すことが出来るのである。

【北部工業地帯の電車】 本社を小倉市小町に有する九州電氣軌道會社が専ら營んでゐる。その本線は、門司より小倉八幡を経て折尾に至る十八哩三分。支線は

八幡から分岐して戸畑阜頭に向ふ三哩五分である。

大正十年一箇年の乗客數實に千八百七十四萬一千百三十六人を算してゐる。

海上の交通

【入港船舶噸數統計】

(大正十一年)

	汽船噸數	帆船噸數	合計
門司	一四三〇七九二二	四四五七四〇三	一八七六五三二五
若松	三三二五二一七	四〇一八六七一	七三四三八八八
長崎	二六九七五六二	二四五一五七	二九四二八一九
三池	二七七一三〇二	三九二九七	二八一〇五九九
唐津	一一九三八三一	四〇〇二五	一二三三八五六
佐賀關	八三六七三〇	二五五八一〇	一〇九二五四〇
神戶	一九八〇六六八三	三〇四五七二〇	二二八五二四〇三

【必ず寄港する處としての門司港】 苟しくも關門に一時たりとも碇泊しない

船はない。定期船は勿論皆さうであるし、臨時船でも必ず門司又は下關に寄港して行く。

寄港の理由は強いて求めれば次の如き事に考へてよからう。

1. 門司の經濟上の後地が廣いから。
2. 世界交通の要路に中つてゐるから。
3. 石炭を補充するに便宜が多いから。
4. 他の航路又は鐵道の乗り替へ點になつて居るから。
5. 潮流が急で、寧ろ適當なる潮時を待つ方が得策であるから。

五都 邑

【人口一萬以上の町村數】

(大正九年十月一日の國調による)

福岡縣

四〇(うち人口二萬以上のもの六)

佐賀縣

六(うち人口二萬以上のもの一)

- 長崎縣 五
- 熊本縣 五 (うち人口二萬以上のもの一)
- 大分縣 五
- 宮崎縣 五 (うち人口二萬以上のもの一)
- 鹿兒島縣 五一 (うち人口二萬以上のもの六)

國勢調査以後「市」になつた戸畑(福岡)、宮崎、都城(宮崎)の三市は右の中か
らぬいてある。

福岡縣に大町村の多いのは鑛業地並びに商工地として當然なあらはれてある
が、鹿兒島縣に同様以上に人口上の大町村が多いのは何故か。これは鹿兒島縣の
町村の占める行政區劃が概して大きいのと、火山灰の高原などの水利のよい部分
に寄り添つて生活する傾向があるが故である。

- 【一方里につき人口】
- 福岡縣 六八五七
- 佐賀縣 四二五四

- 長崎縣 四二五七
- 熊本縣 二五五九
- 大分縣 二一三一
- 鹿兒島縣 二四二三
- 全國(朝鮮臺灣樺太を除く) 二二二五

【宮崎市について】 大淀川口から約一里上の河沿ひの地にある。新教科書百五
十頁の上の挿繪は大淀川に架けられた橋橋(二〇〇間)の袂から河口の方面を望
んだ光景で、如何にも廣濶な氣分になる。九州山脈の南にも斯うした廣い平原が
存在するのである。

宮崎市はたゞに大淀下流の海岸平野を經濟的に支配するばかりでなく宮崎線、
志布志線を通して都城乃至志布志、鹿屋地方の低地帯の物資も扱ひ得る位置に立
つて居るので將來の發展が期待される土地である。

【鹿兒島市の優秀】 鹿兒島灣岸の狭い餘地に建設せられてゐる南九州の大都會
である。甲突川と云ふ小川が市中を流れてゐるが、その南方が稍々餘地を存する
ので其の方面に市街が續々と伸びつゝある。

鹿兒島の地點は薩摩半島のうちでは比較的幅の狭い、而かも垂直的に極めて低平な地面の東西に行きわたつて存する東端に位置してゐるので西方東支那海斜面との山地横斷の交通も極めて容易である。鐵道川内線は大體に於てこの低地部を西にぬけて伊集院に出てゐる。

川内線は今は米ノ津まで通じてゐるから、やがては八代との間の海岸の線路も全く開通の運びとなるであらう。その曉には重要鐵道二線の仕立驛となり、同時に海との連絡も充分について、南日本に於ける重要な交通都市となる運命が目前にせまつて居る。

【福岡市の地勢上の位置】 御笠川斷層が脊振、三郡の花崗岩地域を截斷して北部にぬける低地帯を作つてゐることは地勢の部で説いた通りである。この低地帯の分水地點には太宰府がある。太宰府に往古全九州を統轄し、對外交渉にも職能を有した官衙が設けられてゐたと云ふ事は福岡研究の上に一つの興味ある資料を與へるものである。

現代ではさうした内陸地は特殊の事情の存せぬ限り市街地として發育する可能性はない。時代が九州を統轄する地點を低地帯の末端としての博多灣岸に移したのであると見て毫も差支なからう。

けれども福岡市の頭痛の種はこの灣入が浅いと云ふ事であつた。博多の海岸から北方海の中道方面へかけて、灣内であるにも拘はらす大いなる砂丘が發育する程の淺海である。大きな船は到底海岸によりつけない。

それで計劃せられたのが「博多灣築港」の成案である。これによると現時の博多港の東北の突角から海の中道の根元の方へまつすぐな岸壁を作る。そして海の中道をバツクにして數個の繫船岸を築造する。博多港の西部に於ても福岡港の東の突堤まで埋め立て、そこに又繫船岸を作る。荒津崎からは博多灣の中心に向けて現在の博多港の正面近くまで斜に大突堤を築造する。大體これが設計の大要である。すると名所としての千代松原あたりはみんな潰されてしまふ事になるが福岡の發展に代へられぬとあつて著々實現への運びをあせつてゐる。

【長崎市とその港灣】 長崎には細長い灣が入りこんでそれを港に利用してゐる。勿論幾多の埋立工事と岩壁及び棧橋等の設備は遺憾なく整へられての上である。

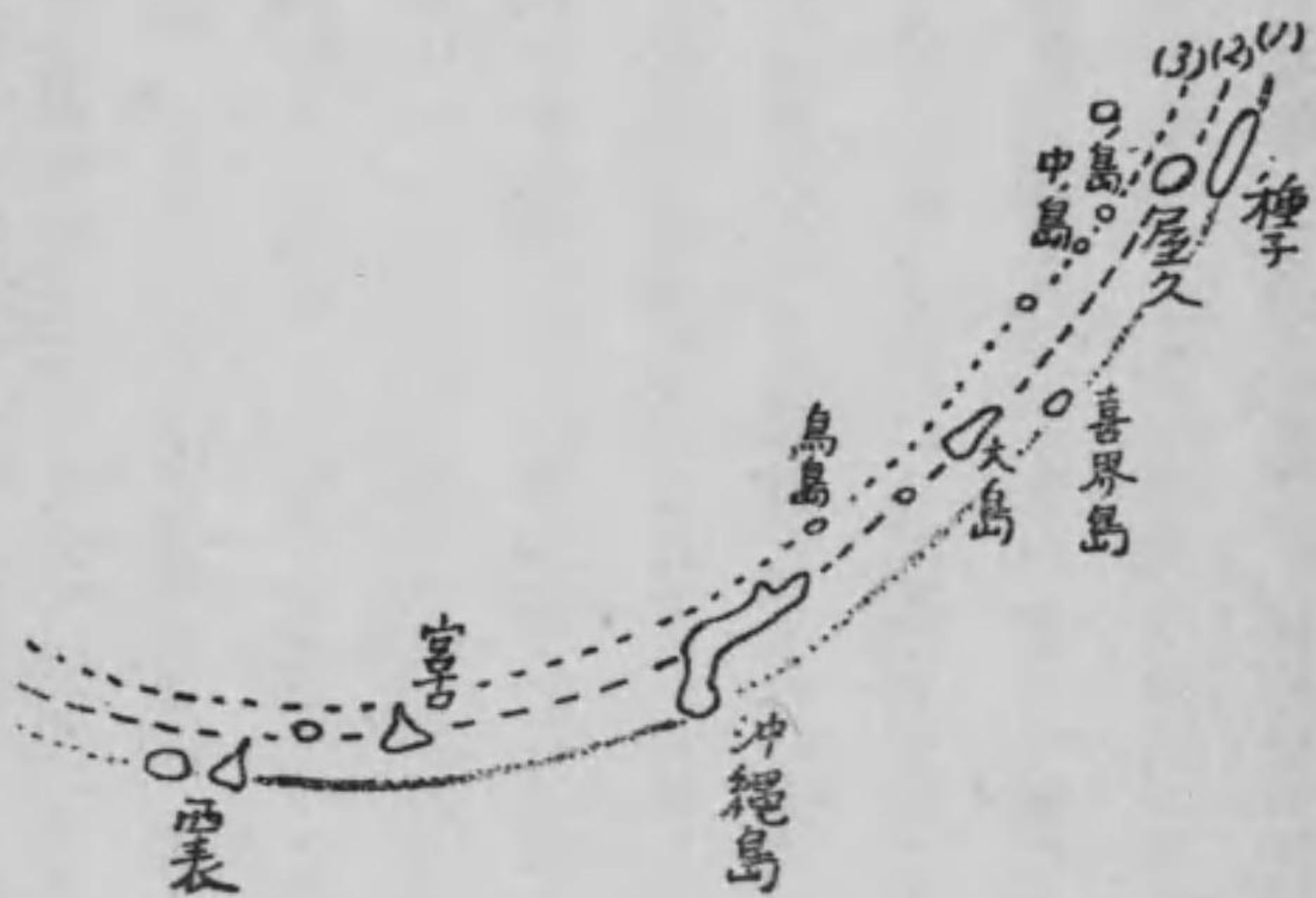
この灣入は大村灣の一副灣時津灣に構造上關係のあるもので、陥落によつて生じた事は明かである。兩岸に山がせまつて居るので港内の水深も大である。

長崎の唯一の缺點として背後の平野（筑紫平野方面を指す）との連絡が充分とれ難い事である。そのために外國との取引も、近頃は門司に株を奪はれしまつた形である。この難點を支へて長崎の繁榮を維持するものは三菱の造船所と上海への快速船の渡航とである。

六 薩南諸島・琉球列島

薩南諸島と琉球列島との間には行政上の區別はあるが、質構造上の區別は無い。明かに三列から成つて居ることは第九十六圖に示す通りである。第一列は第三紀層で構成されてゐる低い島々である。がそれが沖繩島南方にもかかつてゐる。

圖六十九第



第二列は古生層の地帯で所々花崗岩をあらはしてゐる。屋久島に聳える八重岳が一九二八米を有して九州本島にもそれに及ぶ高峯はない程につつ立つて居る。けれども大島、沖繩、宮古等は概して低平な台地性の島となつてゐる。

第三列は霧島火山脈である。口ノ島の中央には高さ六七五米の火山が据はつて居る。中ノ島にも一千米に及ぶ立派な火山がある。鳥島は明治三十六年に破裂し

其の後今に活動を續けてゐるものである。この火山列は遂に台灣島に上陸して大屯火山群を起して居る。

この三列の外側には深い琉球海溝(最深所七)が存するし、内側にも亦陥落による深海が續いてゐるので、それ等の深海の底からこの列島を眺めたとしたら、實に驚くべき偉大な山脈に見えるであらう。

【地盤の上昇を示す隆起珊瑚礁】 那覇港の入口の先原崎及び波上崎あたりは一面の珊瑚礁の海岸から成つて居る。これは水溫の高い南方の海としては別に不思議は無い。ところが那覇市の背後の丘陵も大部分珊瑚礁から出来てゐるのである。首里市は實にこの珊瑚礁の台地の上に位置してゐる。珊瑚虫が海に住む限り、實に不思議な現象と見られる。これを如何に考察するか。

地盤の上昇と云ふ事實をどうしても認めなければならぬ。即ち第三紀以前に海中より浮び出たのがこの沖繩等の島列である。未だその浅い海をなしてゐた時代に珊瑚虫が棲息してゐたのを、水面にぬきんでるに及んで所謂「隆起珊瑚礁」として山の上にもまで海生動物の城廓(?)を殘して居るのである。新教科書百五十、一頁の挿繪の遠景が皆隆起珊瑚礁の丘陵である。

鬼界島、大島、宮古島、石垣島、西表島等も略々ほこれに似よつた地貌を呈して居る。

過去の珊瑚礁が島の上にもまでのさばり出てゐると云ふ事は之等の列島に取つては幸福では無かつた。地味は爲めに非常に劣悪にされた。けれども斯うした土地でも全然放棄するわけに行かぬ。幸にして氣溫と降水量には恵まれて居るので申し合はせた様に「さとうきび」を栽培して土地利用の實をあげてゐる。

【氣象統計】

	累年平均氣溫	氣溫最高	氣溫最低	累年降水量平均	大正十二年 快晴日
石垣島	二三・三度	三四・三度	五・九度	二一六〇耗	四三
那覇	二二・一度	三五・五	四・九	二三三四	三一
名瀬	二〇・九	三五・一	三・一	三一七五	九
(東京)	一三・八	三六・六	零下八・二	一五六一	三七

氣溫が東京等に比べてずつと暖かい。冬分でもオーバーなどは要らぬ。兒童が

お正月でも素足で歩いてゐる。ザラ／＼した珊瑚島の上くらひ歩くのは勿論何とも思つて居ない。

雨量が亦實に多い。大島では一と月に三十五日雨が降ると云はれてゐる。快晴日が一年を通じてたつた九日だから驚く。或る月には一日も快晴の日が無い事になる。

しかし、これがこの地方の産業の土台となつてゐることに留意せしめねばならぬ。

【島民の生活々動】 さとうきびを栽培することがその生業の中心になつて居る。

甘藷畑から刈り取つて來たさとうきびを新教科書の最後の挿繪のやうにして壓搾するのである。二匹の牛が長い水平棒の兩端に居る。牛が進行するにつれて中心の石製のルーラが廻轉する。ルーラとルーラの間へさとうきびを挟むのである。さとうきびの汁が一方に装置せられてゐる壺等の器物にあつめられる。それを砂糖小

屋にもつて行つて煮つめると粗糖になる。これを白砂糖に精製するためには強い火力を要するから大都會乃至は石炭の容易に得られるやうな海岸地（例へば門司の大里）に運送する。別圖の樽詰めは、やがては船舶によつて精製地へ向ふのである。（大正十一年生産高は沖縄縣八八六四萬斤、鹿児島縣二五一六萬斤であつた）

斯うした作業を村はづれの空き地でやつてゐるのが面白い。野趣に富むと云ふよりも寧ろ原始的である。そこに働いてゐる人は甘藷で満腹しつゝ日に日に働く。

いもは大正十一年に一億六千二百萬貫も産してゐるからいくら食つてもかまわない。きれつばしを惜し氣もなく牛馬や豚にやる。砂糖きびの葉や、搾り粕も家畜が好んでほゞばる。全く一舉兩得である。

よつて豚の飼養數の多い事沖縄は全國一で、九萬三千五百頭を算してゐる。鹿児島はこれに亞ぎ六萬二千頭を飼育してゐる。

【ラサ島の燐礦について】 那覇から二三六哩の東南海中にラサ島と云ふ島があ

る。低い台地状の小島で全島珊瑚礁に覆はれてゐて枇榔等の熱帯樹が茂つてゐる。この島から燐礦と稱する燐酸肥料の礦石が採掘されるので人に知られてゐる。燐礦は珊瑚礁の碎破された石灰質の地層の上へ海鳥がやつて來て糞をする。その糞が長年月の間にうづ高く積り石灰岩に作用して鳥糞でもなければ石灰岩でもない一種の礦石になつてしまつた。これが燐礦である。

石灰岩+鳥糞+雨量+日照+時=燐礦

大正十一年の沖繩縣の燐礦産額は二二三九七〇圓で、多くは阪神に運んで行き、その肥料工場で精製される。

【那覇の港市】 薩南諸島及び琉球列島中での最も重要な港である。その入港船舶噸數は、

	汽船	帆船	合計
大正十一年	四五八八五九	五〇三六	四六三八九五

で、主として粗糖及び近海に産する水産物を内地に搬出するのが目的である。定期船としては大阪商船が専ら任じてゐる。

1. 大阪沖繩線 普通定期 月五回
2. 大阪沖繩線 直通定期 月五回
3. 鹿兒島沖繩連絡線 月十回

新教科書百五十一頁の挿繪の向つて右の方に碇泊してゐるのは大阪商船會社の船である。

新地理書教授の實際 尋五用終

附 錄

教材配當案

第一學期十五週

第二學期十五週

第三學期十二週

週	時	教 材
一	第一學期	我が國の領土・四周面積
二	第一日 本	地勢・氣候・産業・交通
三		國民
四		行政區劃
五		地方區劃
二		第二 關東地方
一		區域
三		山
四		川、平地
五		海岸
六		三 産業
七		農業、工業
八		鑛業
九		水産業
一〇		四 交通
一一		陸上の交通
一二		海上の交通

附 錄 教材配當案

一

七	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
通信	東京	横濱	其の他	伊豆七島、小笠原	練習	奥羽地方	一 區域	二 地勢	山
							川、平地	海岸	三 産業
									農業・工業
									牧畜

二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
林業	鑛業	水産業	四 交通	陸上の交通	海上の交通	通信	練習	五 都邑	中部地方
									一 區域
									二 地勢、氣候
									山脈
									地勢
									川・平地

一	二	三	四	五	六	七
二	三	四	五	六	七	八
海岸	氣候	三 産業	農業	工業	林業	水産業
						鑛業
						四 交通
						陸上の交通
						海上の交通
						五 都邑
						太平洋方面の都邑
						日本海方面の都邑
						中央部の都邑
						練習

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
一 區域	二 地勢	西北部	南部	中央部	海岸	三 交通	陸上の交通	海上の交通	四 産業	工業	農業・林業	水産業
												鑛業
												五 都邑
												京都

附録 教材配當案

二六	奈良
二七	大阪
二八	神戸
二九	其他
三〇	練習

第三學期

一	一 區域
二	二 地勢
三	分水嶺
四	瀬戸内海方面
五	日本海方面
六	三 産業
七	農業・牧畜
八	工業・鑛業
九	水産業

第六 中國地方

三	四 交通 附瀬戸内海の交通
四	瀬戸内海方面の交通
五	日本海方面の交通
六	瀬戸内海の交通・風景
七	五 都邑
八	瀬戸内海方面の主な都邑
九	日本海方面の主な都邑
一〇	練習
一一	一 區域
一二	二 地勢
一三	山・川
一四	海岸
一五	三 産業
一六	林業・水産業
一七	鑛業・其他の産業

四

第七 四國地方

二二	海上の交通
二三	五 都邑
二四	薩南諸島、琉球列島
二五	練習

二二	四 交通
二三	五 都邑
二四	一 區域
二五	二 地勢
二六	山
二七	川・平地
二八	海岸
二九	近海の島
三〇	三 産業
三一	農業
三二	林業
三三	牧畜
三四	工業
三五	水産業
三六	四 交通
三七	陸上の交通

大正十四年四月十五日印刷
大正十四年四月二十日發行

新地理書教授の實際
定價貳圓六拾錢

不許複製

著者

三木英太郎

發行者

東京市牛込區南橫町七十二番地
加治木武助

印刷者

東京市牛込區天神町八十二番地
山口梧郎

印刷所

東京市牛込區天神町八十二番地
山口商會印刷所

發行所

東京市牛込區南橫町七一
振替東京三六六九四

集成社

好評盡きぬ本社の新刊重刊書

新國史詳説	木藤重徳先生著	高一用 定價二圓六十錢 送料十二錢
新理科書教實際 授の	山川鐵三郎先生著	高一用 定價送料未定
尋常地理學習書 小學指導	上里朝秀先生著	尋五・六後前期 定價各五十錢 送料各六錢
尋常國史學習書 小學指導	照井猪一郎先生著	尋五・六前後期 定價各四十錢 送料各六錢
國史教育の 根本問題	上里朝秀先生著	定價二圓 送料十二錢
兒童源平盛衰記	奥野庄太郎先生著	上下二册 定價一圓三十錢 送料各十二錢
兒童太平記	鷲尾知治先生著	上下二册 定價一圓二十錢 送料各十二錢
兒童義經記	鷲尾知治先生著	上下一册 定價一圓二十錢 送料十二錢
兒童太閤記	山本徳行先生著	上下二册 定價一圓二十錢 送料十二錢
尋常國史詳説及 小學及び教法	木藤重徳先生著	定價二圓三十錢 送料十二錢
ダルトン案の理論及 實際	パーカースト女史著 赤井米吉先生譯	定價二圓五十錢 送料十二錢

終

